

令和6年度 千葉市生活支援コーディネーター

緑区 第1層協議体

テーマ：福祉施設とのネットワーク構築

1 概要

日 時：令和7年1月15日（水）
場 所：緑保健福祉センター
大会議室

2 目的

福祉施設と生活支援体制整備事業について共通認識を図り、連携体制を強化する。

3 参加団体

計：17団体 21名

高齢者施設（7）、障害者支援施設（2）、健康課、高齢障害支援課、地域づくり支援課、あんしんケアセンター、社協、生活支援コーディネーター

4 協議体設置に至った経緯

これまで、1層協議体では地域の課題をふまえ、「外出支援」をテーマに福祉施設と連携を図り取り組んできたが、さらなる連携の輪を広げるため、今年度の協議体には新たな福祉施設にも参加を呼びかけた。そして、生活支援コーディネーターの役割について改めて共通理解を図るとともに、取組事例の発表やグループワークを通じて、参加者の立場でできることを共有し、今後の連携・協働の促進を目指した。

5 内容

①生活支援コーディネーター（生活支援体制整備事業）について

②緑区の取り組み紹介

- ・サロンの送迎支援・買い物支援・ラジオ体操
- ・ホッとステーション（ベンチ）・新聞紙エコバッグ・手作り品の活用

③グループワーク（3グループ）

「施設が考える地域貢献について」 グループごと発表

☆社会福祉法人 障害者支援施設による「サロン送迎支援」

★町内会館で行われているサロン活動へ歩いて行けなくなってしまった複数の方が多いいらっしゃいました。月1回のサロン活動での交流を楽しみにして、日々のモチベーションにもつながっていましたので、とても大切な活動でした。ご本人やサロン仲間にとっても、また一緒に歌を歌ったり、楽しくおしゃべりしたいという希望がありました。

①令和4年10月
1層SCより理事長へ協議体への参加依頼、SCの取り組みについて説明。
2層SCの紹介・話をする機会が欲しいと伝える。

②令和4年12月
2層SCから理事長へ連絡し、施設訪問。
送迎支援について相談→施設側了承。

③令和5年1月
施設側とサロン代表者を繋ぎ、打合せを行う。

④令和5年2月
送迎支援開始。サロン開催日に自宅から活動場所まで5～6名を送迎



☆社会福祉法人 高齢者施設による「買い物支援サービス」
シニア支援の会・社会福祉法人・社会福祉協議会 3者間の協定を締結



☆小規模多機能型居宅介護施設 地域交流「ラジオ体操」



☆2層SCによるマッチング
「手作りランチョンマットを施設で活用」



6 結果

〈意見・感想〉

- ・私たちの施設でもできる取り組みではないかと思いつつ、人手不足等、様々な課題が見かかった。まず施設として目標値を決めて取り組みたい。
- ・地域にとけ込むには、地域との交流が大切。現在は、施設でAED講習会を開催したり、地域イベントへの参加や中学校での福祉教育を通じて、施設や障がい者への理解に繋がっている。
- ・各施設の取り組みや課題を共有することができ、自分たちの活動をどのように進めていけばよいのか、継続についてもヒントをいただいた。
- ・地域に向けてできることや一緒にできることはないか、自治会長さんに伺い、地域に根付くような取り組みを行っていきたい。
- ・コロナ禍の影響やマンパワー不足等の課題を抱えながら、どの施設も苦労と工夫の中で、現在の新しい取り組みに繋がっていると感じた。
(オンライン交流・マルシェ・地域活動へ参加)
- ・生活支援コーディネーターの役割として、フレイルに陥っているような方が地域で役割を持って生活できる、そのような場があるというところが一番なので、施設の力を借りながら考えていきたい。
- ・介護予防の部分や福祉関係だけでなく広く異業種と関わりながら、多方面からの視点でアドバイスをもらい、知恵を使いながら繋がっていく必要がある。
- ・ラジオ体操など、公園で音楽が流れていれば、子どもも大人もゆるく繋がりながら体操や見守りができる。このようなゆるい繋がりも今後必要になってくる。

〈協議体を通して〉

- ・生活支援コーディネーター（生活支援体制整備事業）について説明し、共通認識を図ることができた。
- ・施設が関わる取り組み事例の紹介およびグループワークを通して、各々の役割と連携について、より具体的なイメージを持つことができた。
- ・地域および支援ニーズへの関心を一層高めることができた。
- ・施設同士の横の繋がりや異分野との新たな繋がりができたことで、地域資源開発等において今後の新しい展開が期待できる。
- ・施設それぞれの強みや課題を参加者で共有することができたことは、今後の連携体制の強みになった。

6 今後に向けて

今後はこの関係性を維持・発展させながら、第2層生活支援コーディネーターと連携し支援ニーズの把握に努め、高齢者が地域で役割を持って生活できるように地域資源を活用した調整を進めていく。

福祉施設での特技の披露や作品展示、庭整備等のボランティア、また小学校のセーフティウォッチャー活動等を通じた、多世代交流の機会や高齢者の活躍の場を広げる。分野や世代を超えた地域のさまざまな繋がりを増やすことで、高齢者の「住み慣れた地域での自分らしい安心した暮らし」に繋げていく。そのための情報収集と新たなネットワーク構築に努める。

7 担当

緑区 第1層生活支援コーディネーター

【TEL】 043-292-8185

【所在地】 〒266-8550 千葉市緑区鎌取町
226-1 緑保健福祉センター内
社会福祉協議会緑区事務所

千葉市生活支援コーディネーター



千葉市
ホームページ

